

## 令和3年度全国学力学習状況調査の結果

## 京都市立川岡東小学校

5月27日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習調査」について、結果がまとまりました。従来のA問題（基礎的知識）とB問題（応用力）を統合した形式で国語と算数の2教科が実施されました。同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も引き続き実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 総合結果（国語科・算数科）

国語・算数とも京都府の正答率は、全国の正答率を上回っています。本校では、国語・算数どちらも全国より正答率は高い結果でした。国語は、京都府より少し低いですが、算数は、京都府と同じ正答率でした。国語より算数の方の正答率がいい結果でした。どちらも、知識・技能の項目での正答率がよく、学習したことの基礎的な内容はしっかりと定着していると考えられます。ただし、獲得した知識や技能を活用し、考え方表現する力が弱いという傾向が見られました。また、どちらの教科も無答率が低い傾向があり、時間を精一杯つかって何とか回答しようという姿勢が見られました。

## 国語科より

国語科では、基礎的な言語の力はしっかりと定着しています。知識・技能の面では、京都府の正答率よりも高い上、全国の正答率より4ポイントも高いという安定した力を示しています。しかし、全体的に問題に対する正答率のばらつきが大きく、できることとできないとの差が大きいという結果が出ています。基礎的なものはしっかりと答えられるが、基礎的知識を活用して思考・判断・表現する力が弱いという傾向です。

特に、書くこと、読むこととなると、全国より3ポイント以上低く、京都府からは5ポイント以上も低い結果となりました。特に、書くことへの課題が大きいと考えられます。無答率が少ないので、何とか答えようと頑張っていますが、○○を用いて答えるとか、必要な情報を見つけてまとめるといった点に苦手意識が見られました。

## 算数科より

算数科では、京都府と同じ正答率で、国語科よりも算数科の方が安定して力を発揮していました。こちらも無答率が少ないので、何とか最後まであきらめずに答えようとする姿勢が感じられました。

学習指導要領の領域から考えると、測定に関する部分が弱く、変化との関係やデータの活用は少し京都府より高い正答率を示していました。

国語科と同じように、知識・技能の基礎的な面での定着率は高かったです。また、選択式や短答式の問題の正答率は高く、記述式に正答率が低いという傾向がありました。

答えが明確な問題は意欲的に取り組み、記述する、理由を書く、説明をするといった問題には弱い傾向も見受けられ、面積の求め方を答えを書くといった問題では、無答率も全国並みとなっていたので、答えが明確にならない問題には苦手意識があるように感じられました。

平素は、本校の教育にご理解、ご協力ありがとうございます。

「児童質問紙調査」「児童質問紙・国語科・算数科の分析から」「保護者の皆様へ」と3つ視点で結果の考察から、子どもへのかかわり方など表現していますので、一読いただきますようお願いします。

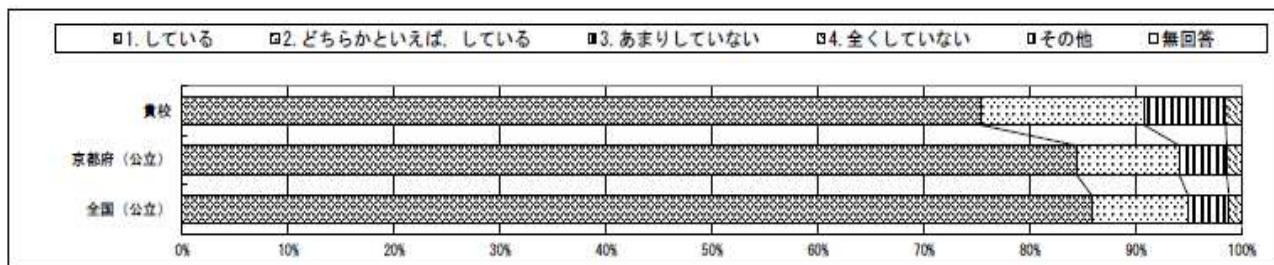
子どもの前向きな姿勢を大切にしつつ、より力の発揮につながるよう取り組んでいきますので、各ご家庭でも引き続きご支援いただき、なかなかコロナで学校での様子を見ていただくことができませんが、子どもの活躍する姿や積極的に取り組んでいこうする姿を応援いただければ嬉しく思います。

今後ともどうぞよろしくお願いします。

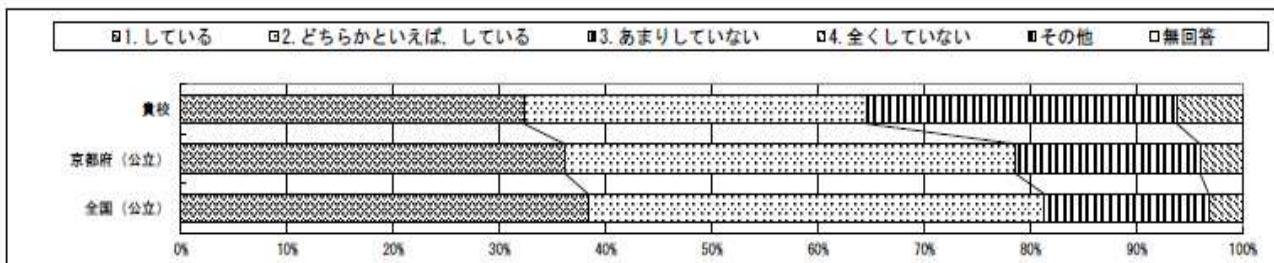


## 児童質問紙調査から

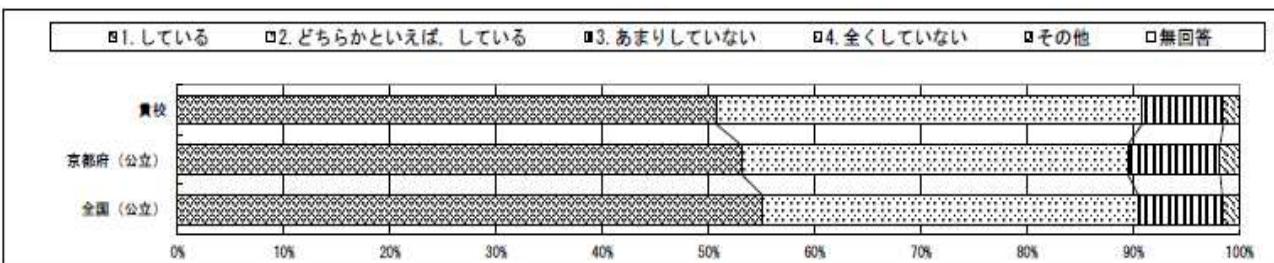
**Q 朝食を毎日食べていますか。**



**Q 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。**

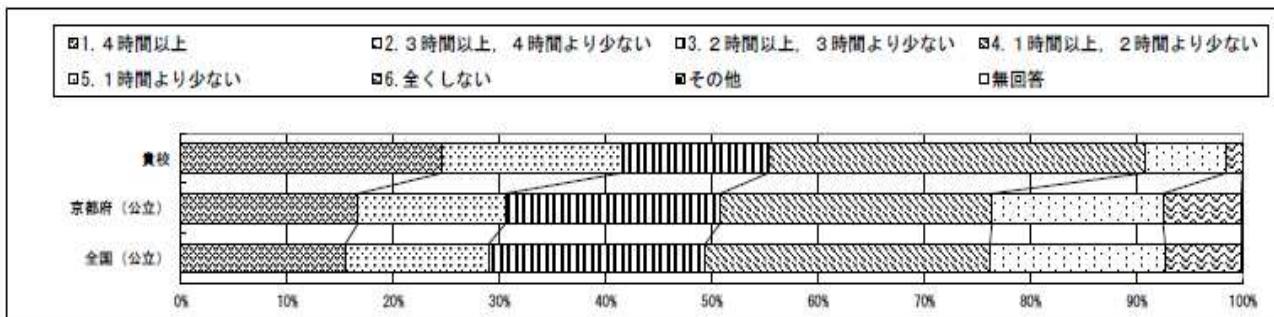


**Q 每日、同じくらいの時刻に起きていますか。**



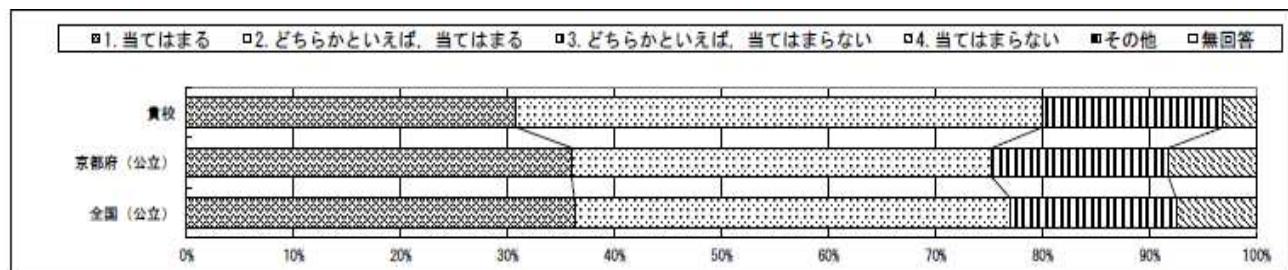
朝食の摂食や就寝時刻などは、「3. あまりしていない」「4. 全くしていない」の割合が多く、不安定さが見られます。起床時刻は「2. どちらかといえば、している」の割合が多く、ある程度安定しているように見受けられます。3つの質問紙から、生活習慣に不安定さがうかがえます。朝の起きる時刻は、登校することで、保護者の方の支援が大きいかと思われます。朝食の摂食や寝る時刻は関連があるように感じます。寝る時刻が安定することで、朝の過ごし方もよりをもって取り組めるのではないかと感じます。

**Q 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしていますか。**

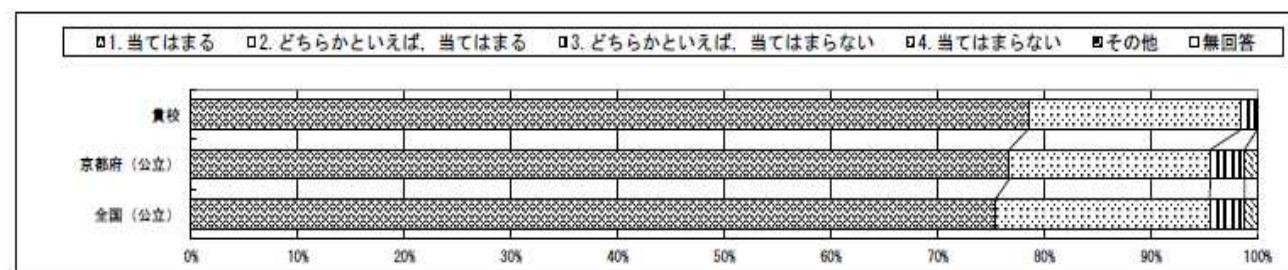


テレビゲームなどの画面の視聴時間は、「1. 4時間以上」の割合が、多くなっています。また、「5. 1時間より少ない」「6. 全くしない」という割合が少ないとところから、長い傾向が見られます。これにユーチューブなども含めるともう少し長い時間の割合が増えるかもしれません。この視聴時間と寝る時刻は関連しているのではないかと考えます。生活習慣の安定に向けて、ルールや決まりの順守ということの意識が必要かと考えます。

**Q 自分には、よいところがあると思いますか。**

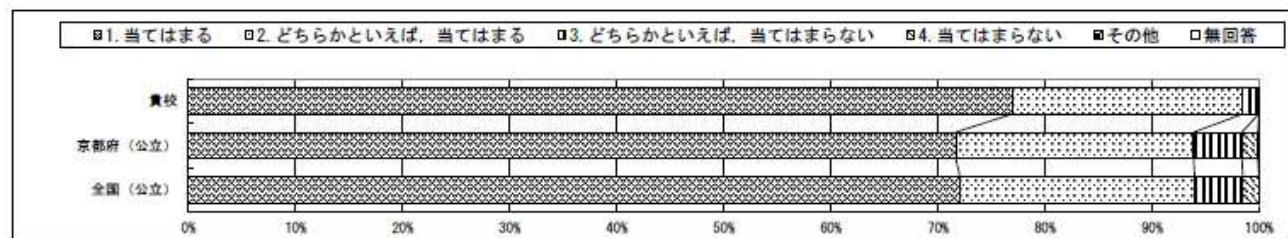


**Q 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。**



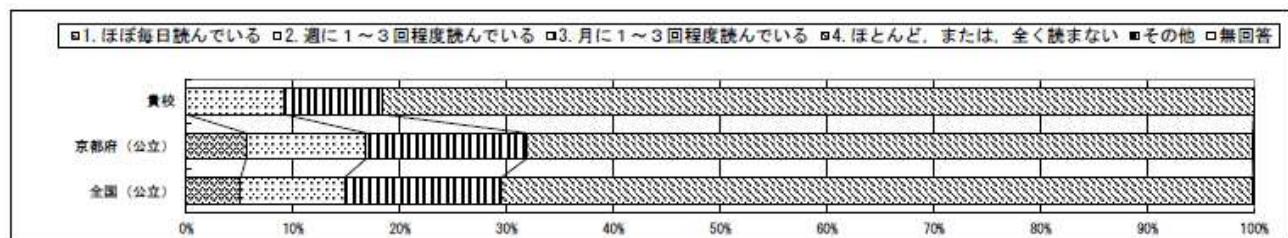
自分によいところがある設問では、「2. どちらかといえば、当てはまる」という回答が多くを占めています。あまり自信が持て切れていないところが感じられます。自尊感情を育むことが大切かと思いまが、人の役に立つ人間になりたい、という設問では、多くの児童が「1. 当てはまる」と思っているのはうれしい姿だと感じました。

**Q 友達と協力するのは楽しいと思いますか。**



友達と協力することを楽しいと感じている児童が多くを占めています。人とのかかわりを楽しみの一つとして感じていることが、これから社会で生きていく上で、大切な思いかと考えます。また、仲間との交流で、楽しい思いを持っているという証なのかもしれません。上記の人の役に立ちたいということつながっているのではないかと考えます。

**Q 新聞を読んでいますか。**



新聞を読んでいますかという設問に対して、「4. ほとんど、または、まったく」という割合が非常に多い結果となっています。また、「1. ほぼ毎日読んでいる」という児童はいませんでした。新聞に接する機会がたいへん少ないという結果が示されています。家庭で新聞を購読する機会が減ってきていることも関係しているかもしれません。時事的な問題などの接する機会も、ネットニュースで知ることにつながっているかもしれません。

## 児童質問紙・国語科・算数科の分析から

国語科・算数科の解答傾向の分析から、自信があるところとないところがはっきりと表れているのではないかと考えられます。基礎基本に関わる問題や答えが一つなどクイズ問題のように取り組める問いは、自信をもって解答しているだろうという傾向が見受けられます。その反面、記述式での解答、説明をするとか一定の条件の中で解答する、考えを簡潔にまとめて表現するという問いには、苦手意識がでてきていたり、自分の考えに対して、自信が持てず言いきれなかつたりするのではないかと感じられそれが正答率に影響しているように思います。

質問紙の回答では、「どちらかといえば・・・」に回答する傾向が多く見受けられました。自分自身に自信をもって言い切れない、弱さがそこにあるように感じられます。自尊感情に関わる質問紙でも「どちらかといえば・・・」に多くの回答が集まっています。

そこから、まず、子どもたちの自尊感情が高まるように、成果を明確にして、頑張ったことをしっかりと評価してかかわっていくことが大切かと感じます。また、国語や算数の解答から、確実に取り組んだことや自分がしっかりと考えて学んだと思えるものには、自信をもって取り組むことができ、安定して成果を発揮していると考えられますので、書くことや説明をするという点で弱さが見受けられるところから、書くことや説明する機会をより意図的に取り入れ、児童が徹底して学んでいるという意識を持つことが大切だと考えます。

今、学校では、帯の時間を活用して基礎基本の徹底を図っています。漢字名人や計算名人など学校全体で力を試す機会も設定しています。この取り組みを継続しつつ、培った基礎基本の力を授業の中で有効に活用できるように、授業の中での書く時間の確保やある一定の条件での表現する機会をより一層大にして、工夫していきたいと考えます。

## 保護者の皆様へ

これから社会は、AIの発達により、既存の職業がAIにかわり、新たな職業が展開されていくのではないかと考えられています。知識の量や情報処理能力はAIに代わるのかもしれません、文章を読み解く、人の気持ちを考えるなど、思考し判断して、周りの状況や相手の様子を鑑みて表現する、行動することが人に求められるものになるでしょう。そうなると、各教科の知識量を図る学習評価だけでなく、さまざまな教科や領域を繋ぎ合わせて、学習に取り組んでいくことが大切であると考えています。知識量の評価は目に見えて、成果も上がりやすくわかりやすいのですが、それだけで評価していると、からの社会では厳しくなっていくのだろうと考えています。

そのことを踏まえて子どもの能力を育てていく必要があります。しかし、学習意欲が高まらないと大きな成果にはつながらない上、からの社会を自ら切り拓くことができません。まずは、子どもが意欲的に学習に取り組めるように支援するとともに、獲得した知識技能をどう活用して、自らの考え方や思いを表現できるのかを考えていきたいところです。

答案の解答傾向や質問紙の回答から考えると、言われたことをまじめにやりこなすという感じを受けます。例えば、家庭で宿題は確実に取り組ませているとか、学校にはしっかりと登校できよう支援している、というような大きな支えが、今の子どもたちの成果となっていると考えます。ただ、分析から、自信が持てないところや言われたことをこなすことで安心しているところがあるように思います。その基本をベースにそこから、自分を見つめ、考え方判断して工夫した取り組みや、もう少しやってみようとするような踏み出しができれば、大きく成長するように思います。

子どもたちには、自ら計画立て継続する力や、自らで判断して行動する力が必要です。そのために、子どもの想いや考えによりそい、一歩踏み出そうとしたことをしっかりと評価し、背中を押してあげるかわりを意識することで、より大きな成果が生まれてくると感じます。